





## 事業報告書

## 【親子で学ぶ性教育～心とからだを大切にするために～】

日時	平成 29 年 10 月 14 日 (土) 10:00~12:00
目的	おとなが子どもの性に対する現状を知り、思春期の子どもに身体や性について科学的に正しく伝える重要性及び具体的な方法を学び、啓発することを目的とする。
対象	関心がある方
講師	徳永 桂子 氏 (思春期保健相談士)
会場	沖縄県男女共同参画センターていりる3階 研修室 1・2
定員	親子 15 組 (30 名程度) [申込者数 48 名]
参加者数	38 名 (大人 17 名・子ども 21 名)
講演内容 (概要)	<p>子ども向けの話</p> <p>始めにからだの名称が出てくるゲームを行い、からだの名称をきっかけにからだに対する興味を引き出した。性器の正式名称を教え、内性器や外性器は男女とも同じところから発達したことに基づき科学的に分かりやすく話した。</p> <p>① 「見せて、触らせて」と言われたら「嫌だ！やめて！」と言い逃げる事          ② 怖いこと、嫌な事があったら家族に話す事          ③ 性器の役割、洗い方、赤ちゃんの誕生。          ④ 外に落ちている避妊具を見つけた場合触らないこと</p>   <p>おとな向けの話</p> <p>①科学 自分のからだについて科学的に正しく学ぶ。これは全ての子どもに保障される権利である(教育の人権)。科学的に学ぶことで子どもが自分のからだに興味を持ち、自分を大切にしたいと思えるようになる(自尊感情が育つ)。すると暴力被害に遭いにくくなり、適切な保健行動もとれるようになる。</p>  <p>②安全 子どもを性被害から守る。</p> <p>③健康 性感染症(性行為で感染する病気)はおもだったものだけで 50 種類以上ある。性感染症から子どもを守る観点から避妊具の実物を見せて教えた。</p> <p>以上の 3 つの観点から性教育は大切。国連も調査(1997)に基づいて以下のように述べている「効果的なプログラムは最初の性交を遅らせ、性的に活発な若者を HIV を含む性感染症や予期せぬ妊娠から守るのに役立っている。セクシュアル・ヘルスに関する教育は、性行動がはじまる前に開始すると最も効果があがる。」</p>  <p>何故小さいときから始めるのか、資料のデータから考え現状を知る</p> <p>1) 性やからだをふくめて何でも話せる親子関係を小さいときに作っておく          2) 子どもを性被害から守りやすい</p> <p>被害にあったときおとなに話せない理由をグループで話し合う(親に心配をかけたくない、自分が悪い、恥ずかしい、加害者が身近な人、言葉を知らない、誰に言っても良いかわからない)</p> <p>日々の生活の中でのからだの自尊感情の育て方を具体的に知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校入学前はもちろん、子ども時代の性被害経験の多さ、加害者のほとんどは面識がある。</li> <li>・性被害に遭った時に利用できる専門機関ワンストップ支援センターの紹介</li> <li>・男子の性被害について、性的いじめについて</li> </ul> <p>3) 性の話を始めるのに最も簡単な時期</p> <p>子ども向けのお話しの解説と補足</p>
参加者の声	<p>・科学的な体の説明をきけて有り難かったです。子どもへの質問に自信をもって答える事ができそうです。</p> <p>・小学校の P T A の公開講座で来て頂きたいです。</p> <p style="text-align: right;">(一部抜粋)</p>
主催等	沖縄県・(公財)おきなわ女性財団